

[様式2]

| 御提案書 | |
|---|--------------------|
| 技術分野 | ③ |
| 提案件名 | 海水中の放射性 Cs、Sr 除去技術 |
| 提案者 | 住友大阪セメント株式会社 |
| <p>1. 技術等の概要（特徴、仕様、性能、保有者など）</p> <p>本処理技術は、住友大阪セメント株式会社とレックインダストリーズ株式会社の共同研究により開発されたもので、下記のような特徴を有する。</p> <p>1) 海水中など、その他のイオンの影響を全く受けない</p> <p>NaCl 濃度、Ca 濃度、Mg 濃度等のイオン濃度が高い廃水中でのセシウム除去性能が高い。またイオン濃度が低い廃水中に含まれるセシウム除去性能との差が小さい。</p> <p>2) 吸着剤の添加量（除去剤）が少なく、スラッジ発生量が極めて少ない</p> <p>同様の処理性を確保する為に添加する薬剤量が他の方式に比較して少ないことを確認している。添加剤が少ないことは発生する放射性を帯びた廃棄スラッジ量が少なくと同時に処理コストが安価で有ることにも繋がる処理法である。</p> <p>3) 大量に処理する場合、スケールアップが容易である。</p> <p>図 - 1 の通り、反応槽とリアクター（凝集沈殿槽）で構成される水処理技術として既に確立された汎用的な処理設備で構成される。安定した処理が可能でありオンサイトで小から大容量の処理設備を設置する事が可能である。</p> <p style="text-align: center;">＜図 - 1 処理フロー＞</p> | |
| <p>2. 備考（以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします）</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む） 排水処理分野では多く使用されている処理方式であり、処理性の確認テストも行われていて直ぐに実用化出来る処理技術である。 開発・実用化に向けた課題・留意点 濃縮スラリーは高濃度放射性廃棄物となるため、取り扱い、保管方法の確立が必要。またセメント固化などをする場合、アルカリ雰囲気での安定性の確認を要する。 その他（特許等を保有している場合の参照情報等） 本処理技術は現在特許出願中（4件）である。 | |